

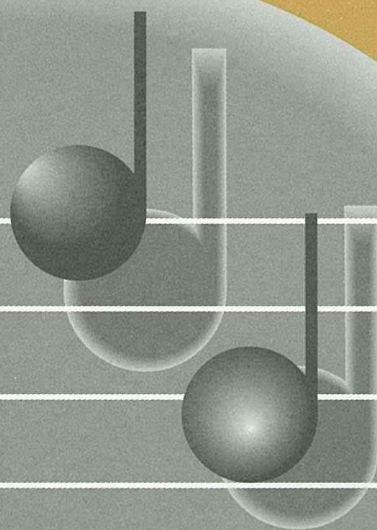
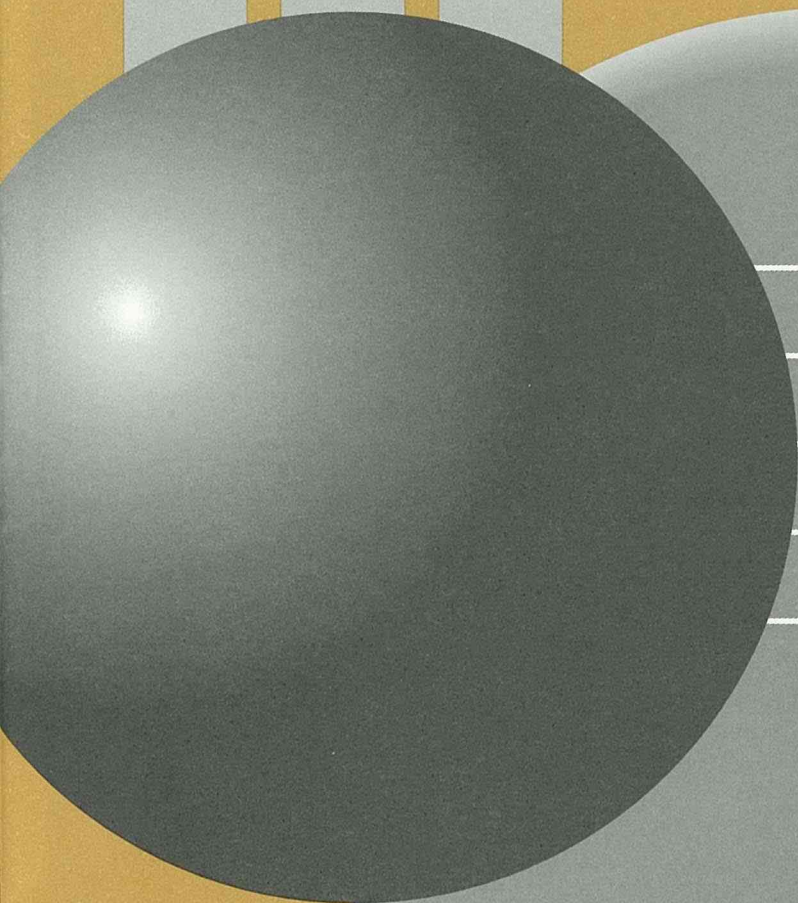
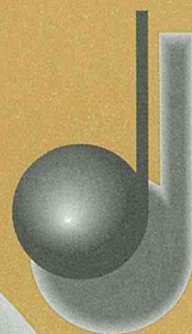
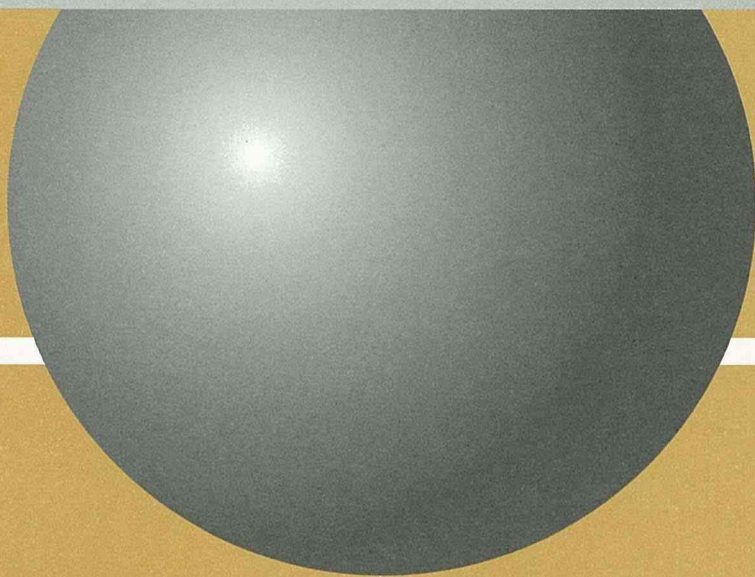
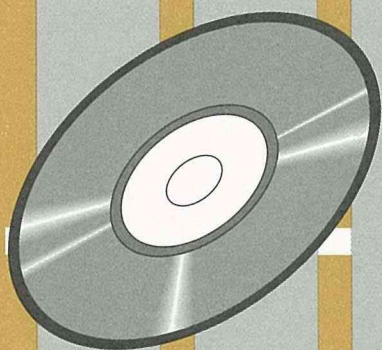
THE RECORD

RIA 社団法人 日本レコード協会

- 「政府規制等と競争政策に関する研究会」音楽用CD等の再販についてのヒアリング開催
- 各音楽団体からの行革委規制緩和委員会「論点公開」への意見書
- 「音楽文化振興議員懇談会」第一回研修会開催
- 1996年レパートリー別市場金額構成比

1997.11

No.456



レコードファン感謝祭 「廃盤特別謝恩セール」開催

去る10月18、19日の2日間にわたり、東京都港区の東京タワーボーリングセンター1F催事場において、当協会加盟29社主催、当協会、日本レコード商業組合、全国レコード卸同業会協賛による「レコードファン感謝祭'97廃盤特別謝恩セール」が開催されました。

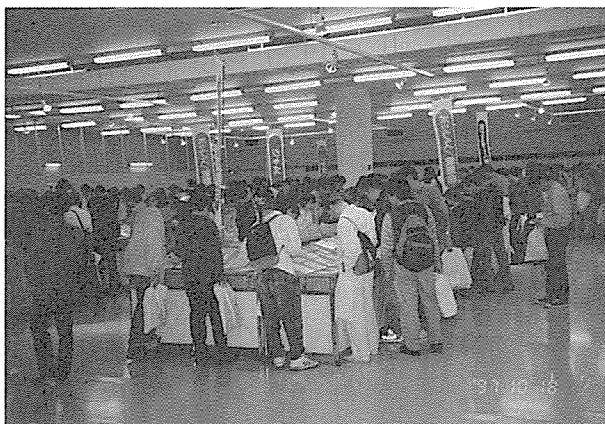
このセールは、レコードファンへの感謝の意味を込めて、今年1年間に廃盤となったCD、レコード、ビデオカセット、ビデオディスク等を一同に出品、70%の割引で販売したものです。平成4年度より毎年開催されており、今年で6回目となりました。

今回の出品数は、コンパクトディスク（8cm、12cm）、ビデオ（VD、VT）、アナログディスク（30cm）の23万9,766枚でした。

両日とも穏やかな好天に恵まれ、熱心なファンが開場前から会場に集まるなど、多くのレコードファンが来場されました。

また、入場者数は、初日3,783人、2日目が1,656人の合計5,439人でした。売り上げは、初日が5万590枚/4,086万4千円、2日目が1万4,611枚/1,095万8千円、の合計6万5,201枚/5,182万2千円でした。

最後になりましたが、廃盤セール委員のみなさまをはじめ、メーカー各社からの応援スタッフのみなさま、今年も2日間ご苦労様でした。



「規制研」による業界ヒヤリング実施

「政府規制等と競争政策に関する研究会」（規制研、座長：鶴田俊正）は、音楽用CD等の再販制度に関し、業界関係者からのヒヤリングを、10月24日、30日の2日に互って、霞ヶ関の公正取引委員会大会議室において行いました。

当日は業界側から、日本レコード協会乙骨理事、日本レコード商業組合矢島理事長、全国レコード卸同業会飯原会長、日本音楽著作権協会加戸理事長、日本芸能実演家団体協議会松本常任理事（2日目は小泉博副会長）が出席しました。また規制研からは、鶴田座長はじめ9人（2日目は13人）の委員が出席し、公取委からは、上杉取引部長並びに和泉沢取引企画課長が同席しました。

業界からは、レコード協会乙骨理事が、再販問題が規制緩和の流れの中にあるとはいえ、現行法律を扱う姿勢とその検討を避けて通ろうとする一部廃止論者の考え方には問題があると強く指摘しました。また「消費者利益」については、多様性の確保とそのためには川上である“音楽創造のサイクル”が円滑に機能することが重要で、再販制度なくしては不可能であることなどを説明しました。

また、矢島理事長、飯原会長、加戸理事長、松本常任理事（小泉副会長）は、それぞれの立場から再販制度が果たしてきた役割や重要性、またその中で音楽産業が如何に文化や教育に貢献してきたかを述べるとともに、制度廃止による問題点などについて指摘しました。

更に、「指定再販」と「法定再販」の違いや公取による著作物の限定解釈の問題、「公的規制」とは何かなどを巡って議論が行われ、独禁法と著作権法との関係、著作物の位置づけなどについては、委員側からも多くの意見や質問が出されました。

今後は、研究会として報告書の取りまとめに入るものと思われますが、音楽業界やレコード業界の実態が必ずしも十分に理解されたとはいえないこともあって、業界としてはその動きに強い関心を寄せています。

各音楽団体からの行革委規制緩和 小委員会「論点公開」への意見書

前号に引き続き、他関連団体から規制緩和小委員会宛に提出された意見書をご紹介します。

全国レコード卸同業会

「規制緩和に関する論点公開」について、参考数字等を資料として添付し、音楽用CD等の再販制度存続の要望趣旨につきまして具申させていただきます。公表の各論点に於ける規制緩和推進計画の目標を、(1)消費者の多様なニーズに対応した選択の幅の拡大、内外価格差の縮小等により、国民生活の質の向上を目指す。(2)内需の拡大や輸入の促進、事業機会の拡大を図り、対外経済摩擦の解消に資する。(3)国民負担の軽減、行政事務の簡素化を図る。と掲げるところ、すなわち自由競争の導入による消費者利益の創出と、業界の活性化と発展を目指すものであるとすれば、再販制度撤廃後の業界のあり方について描かれる青写真のご提示をお願いし、これを参考にさせていただければ、と存じます。その理由は、現在の音楽業界が規制緩和の目指すところに極めて近いところにあると考えるためです。

1. 流通業界に於ける競争の実態について

(1)新規店出店状況＝最近4年間でレコード店は1993年に433店、以降405店、589店、919店合計2,345店の出店があり、1996年時点で全国7,986店を数えます。すなわち全店舗数の約30%がここ4年間で開店し、新しい業者の進出が行われたことを示しています。反面、このような出店による競争の激化により、淘汰、閉店に追い込まれる店も多数発生し、1996年では323店に上ります。また規制緩和の目標とする「対外経済摩擦の解消」に目を転じますと当業界の外資の進出は、1989年から90年にかけての出店を契機として大型店時代に突入し、1996年には82店に上っており、しかも、その人口規模は当初の100万都市から、年毎に中小都市へと展開され96年には10万都市にまで広がってきました。このように私達の業界は、再販制度の有無にかかわらず、大変厳しい競争下にあって、販売店は自らの生き残りとして生活を守るため懸命の努力をしています。

2. 価格の下方硬直性に対して

(1)価格の傾向について＝すでに業界各団体の意見として、たびたび申し述べているとおり他の物価との比較では、全般的な右肩上がりの上昇傾向に対して、CDは下降傾向にあります。その一方で、生産金額はバブル崩壊後も上昇を続けています。これはとりもなおさず消費者の支持を得ているものと考えられます。
(2)レンタル店について＝我が国特有のレンタル制度の料金体系は、一般的に安いところでCDシングル当日(返却)80円、アルバム7泊8日300円となっており、こうした値段で音楽を楽しみ、なお且つコピーも出来る状況にあります。もしも消費者が小売価格に不満を感じるならば、足を運ぶのは販売店ではなくレンタル店になるはずです。しかしながら、店舗数の推移は1989年以降下降傾向にあることから、結果的に現在の価格に対して大方の支持を得ていると考えられます。このような業界の現状下において、再販制撤廃によって価格に操作が加えられることになれば大きな変化が発生します。

私達はこの価格競争が、結果的に規制緩和による寡占化を誘発する店について憂慮せざるを得ません。

以上の観点から、音楽業界の現状をご理解いただきますと共に、再販制度の存続要望を受け止めて下さりますようお願い申し上げます。

(社)音楽出版社協会

昨年及び一昨年の「規制緩和に関する論点公開」の際にも申し上げましたが、経済諸分野における規制緩和推進については、当協会としても歓迎するところであり、レコード等の再販制度については、これを維持することが消費者及び著作者、著作権者、著作隣接権者の利益に資するものと考えます。

繰り返しになると思いますが、レコード等の再販制度維持の立場から意見を申し上げます。

1. 1953年の独禁法改正の際、著作物を一般指定商品と区分して法定再販商品としたことは、一般商品と著作物の本質的な差異を認識していることと考えられます。レコードの再販制度はレコード市場への多様な参入と、その結果として消費者に多様な選択の機会を提

再販関係

供し、本質的な消費者利益の実現を図っています。

2. レコードメーカー数が比較的少なく、寡占化の程度が比較的高く、自由な競争が損なわれているとの指摘がありますが、これらの指摘は事実と反しており、新規参入が活発に行われていることは種々指摘されているとおりです。

さらに、当協会の会員社を見ても200社近くが原盤制作を行っております。レコードメーカーの新規参入に加え、多様な原盤制作者の参入により、自由な競争は過剰なほど行われているのが実態です。

3. レコードの音楽著作権使用料は再販制が撤廃された場合、算出の基準が混乱することになり、著作者、著作権者の利益を損なう可能性が強まります。

レコードからの著作権使用料は、今日、音楽著作権収入の半ば近くを占めており、これが再販制撤廃により大きな影響を受けることになれば、著作者の創作意欲にも関わる問題となり、これも結果的には消費者の利益に反することになります。

4. 我が国の音楽産業は、戦後、今日に至るまで目覚ましい成長を続けてきました。この間に、レコード価格は大幅に低下し、価格のパラエティーさも広がり、また、外国資本の販売チェーンの進出により、かつてはごく限られた大都市でしか入手できなかった輸入盤も全国で販売されるようになりました。音楽のジャンルについてみても現在我が国は世界で最も多様な音楽を日常的に享受できる国として知られています。

この我が国のレコード産業の在り様に、なぜいま手加えられなければならないのか、理解できません。レコード産業の発展に、再販制度がどのような役割を果たしてきたのか、複雑に絡み合う様々な要素の中から、少なくとも再販制度が成長を疎外してきたとすることには無理があります。

レコード産業の発展が、消費者の犠牲の上に行われてきたというのなら別ですが、およそ、消費者の利益に反するような産業が、50年間一貫して成長を続けるなどと言うことが可能でしょうか。消費者の支持がなければ、産業は成長するどころか消滅するのではないのでしょうか。

再販制により小売店の価格競争が行われていないのは事実ですが、小売店による価格競争によって消費者が得られる利益が、その代わりに失われる全ての利益を上回るとは到底考えられません。第一、再販制の撤

廃によって、レコードの価格はさらに下がると言えるのでしょうか。下がるものもあるかも知れませんが、より高い価格設定が必要になるレコードも多いのではないのでしょうか。

いずれにしても、いま再販撤廃が議論される必要があるのか、消費者が再販撤廃を本当に求めているのか、というところから議論を始めなければ、議論自体意味がないと思われます。

「音楽文化振興議員懇談会」 第一回研修会開催

6月17日に自民党有志議員によって設立された「音楽文化振興議員懇談会」の第一回研修会が、10月7日の12時から自民党本部リパティ2・3号室において開催されました。

研修会は、小野晋也事務局長（衆議院議員）の進行で進められ、島村宜伸会長（現農林水産大臣、元文部大臣）による挨拶に続いて、公取委・和泉沢取引企画課長からは、著作物の再販制度の見直しについて、その経緯と最近の状況が報告されました。また、第一回研修会の内容として、日本音楽著作権協会の遠藤実会長が「豊かな日本の発展のために」と題して講演を行いました。

遠藤会長は、少年犯罪の多発やオウム事件、金融不祥事など最近の日本における憂うべき状況に触れ、日本が経済発展を遂げるなかでとんでもない病に陥ってしまったのではないかと指摘、音楽を始めとした文化問題が如何に重要かを強調しました。また再販問題では、委員会の構成メンバーや現在の進め方に強い不満を示し、幅広い方面からの意見を吸い上げるよう求めました。

また、島村会長は挨拶の中で、日本の文化とりわけ音楽分野における関係者及び関係団体の努力を労うとともに、音楽文化発展のために仕事のやり易い、将来に向かって希望の持てる環境づくりに力を注ぐことを約束しました。

その後自由討論に移り、出席した公取委和泉沢課長も含め30分以上にわたって活発な意見交換があり、最後に柿澤弘治副会長（衆議院議員）が「日本はソフ

著作権・その他

トに対する評価や考え方が確立していない。そもそも法定再販と指定再販とは本質的に異なることを理解し、その上に立って懇談会の設立趣旨を生かしていく努力をしなければならない。時間的な制約もあるが文部省や文化庁の意見も聞きながら党として対応を考えるようにしていくことも必要」と結んで第一回研修会を終了しました。

尚、国会議員は島村会長の他本人出席13人、代理出席を加えて総計38人の議員出席があり、また音楽業界団体からは8団体10人が出席しました。

音楽関係団体からの出席者は下記の通りです。

(社)日本音楽著作権協会	会長	遠藤 実
	理事長	加戸 守行
(社)日本レコード協会	理事	乙骨 剛
(社)音楽出版社協会	理事長	渡邊 美佐
(社)日本作曲家協議会	常任理事	小森 昭宏
(社)日本作曲家協会	常任監事	小川 寛興
(社)日本作詩家協会	常任理事	たなかゆきお
日本作編曲家協会	理事長	すぎやまこういち
日本レコード商業組合	理事長	矢島 靖夫

レコード産業 製・配・販オープン情報ネットワーク開発に関する調査研究委員会

平成9年7月、情報システム部会が主体となり、中小企業庁の「中小企業製・配・販オープン情報ネットワーク開発に関する調査研究事業」に公募したところ、9月に同事業に対する補助金交付の決定が下りました。

この事業の趣旨は、レコード産業の物流・商流に関わるオープン情報ネットワークを構築する事業に対して国が補助をし、経営の効率改善を図ることです。

本年度は、事前の調査研究を行うことで、その為の委員会が設置されました。委員は田中義博学習院大学教授を座長として、業界からは当協会の他、レコード商業組合、日本コンパクトディスク商業組合、全国レコード卸同業会、ジャパン・ディストリビューションシステム、日本レコードセンター、日本レコード販売網が参加しています。そして委員会は平成10年2月迄

に計5回の会合を開き、調査報告を取りまとめる予定です。

IFPI理事会開催される

IFPI理事会は、年2回春と秋に開催されますが、今年秋は、10月28日にブラジルのリオ・デ・ジャネイロで行われました。

今回の会議がリオで行われた理由としては、南米地域で横行している海賊版撲滅のためには同地域最大の音楽市場を有するブラジルでの有効な対策、同国のWIPO新条約早期批准といった問題について、政府へのロビー活動やマスコミを通じて広報活動を行う狙いがあったことが挙げられます。

会議における協議の中心は、世界の音楽市場の海賊対策、デジタル環境に直面するレコード産業の行くえに関するものでした。

海賊対策関係では、IFPI本部の新海賊対策責任者の着任の伴ない、従来の戦略を見直し、如何に有効な世界的協力体制を構築するかについて意見が交わされました。

また、デジタル問題の関係では、レコード音楽のネットワーク配信とこれに伴う私的複製への権利のあり方と海賊対策、コピー・プロテクトなどの技術的対策への確実な法的保護、といったことが協議され、レコード製作者の排他的権利の拡大と法律制度の国際的調和の必要性が確認されました。

更に、このような諸問題を解決していくためには、WIPO新条約の発効に必要とされる30ヶ国の批准を目指してIFPIが活動を推進していくことが必要である、との点についても意見の一致を見ました。

カラオケ対策委員会 2種類のリーフレット発行

この度、カラオケ対策委員会では「不法録音カラオケテープ撲滅キャンペーン」の一環として、広く国民に著作権の基本的なルールを知ってもらうために、カ

ラオケ教室経営者・先生向けの「ご注意リーフレット」と、生徒・一般大衆向けの「啓蒙リーフレット」を製作しました。



そして第1弾として、11月上旬に「ご注意リーフレット」を全国の教室約2,000教室にDM発送しました。

また、「啓蒙リーフレット」については、今後、全国のレコード店、カラオケ大会などでの大量配布を予定しています。

更に、関係官庁はじめ、関係団体、カラオケ業界誌、音楽業界紙など関係各方面には、これらのリーフレットを送付し、不法録音カラオケテープ撲滅の活動に理解と協力を求めていることとしています。

新文部大臣就任

9月11日付で決定した新内閣人事で、文部大臣に町村信孝自民党衆議院議員が就任しました。

SME小澤相談役旭三を受章

当協会の元会長で、現(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント相談役の小澤敏雄氏が、この度の秋の叙勲で勲三等旭日中綬章を受章されました。

同氏は(株)ソニー・ミュージックエンタテインメントの経営者として数多くの功績を築かれてきました。

また、長年当協会の要職に就き、多方面に亘り業界発展のためにご尽力されました。特に昭和61年～63年の間は当協会の会長として、レコード業界のトップとして、斯界の発展に貢献されました。

なお、11月11日に国立劇場で伝達式、つづいて皇居で拝謁が行われました。

当協会新年会のお知らせ

平成10年のレコード協会新年会は、1月6日(火)午後4時から、キャピトル東急ホテル「真珠の間」にて行われます。

音楽産業・文化振興財団、東京調査室移転

音楽産業・文化振興財団及びレコード協会特別業務部東京調査室は、11月1日付で当協会の旧事務所であった「レコード会館」(中央区築地2-8-9)から、当協会本部(中央区銀座7-16-3日鐵木挽ビル)1Fに移転しました。

今月のJapan-Music

「Japan-Music」Webサイト開始から、早くも6ヶ月を経過しました。

前月ご案内しましたように、半年を経過して、模様替えという意味合いも込めて、幾つかのコンテンツの更新をしました。

その1つとして、新たにエントリーページが完成し、従来のトップページ前にレコード協会会員各社「1押し」作品のジャケット写真が数秒間ずつランダムに表示されます。この内容は2～3ヶ月で再更新をする予定です。

また、2つ目としてユーザーから要望の高かった新譜情報の提供を開始しました。具体的な内容としては、日本テレビ放送網(株)が毎週月曜日～金曜日の深夜に放送している、「新譜堂」との提携によって、協会加盟各社が毎週発売する、邦楽CDシングル of 全を掲載するものです。

当サイトでは、同番組で前週に放映された内容に合わせて、最新の新譜情報を一挙にインターネット上で紹介します。

IFPI（国際レコード産業連盟）、上半期 売上を発表

IFPIは、世界41か国のデータに基づく97年上半期の売上を発表しました。売上総数は4%減りましたが、金額の変化はありません。売上減少の要因は、世界的な、特に米市場のカセット売上の落込みが挙げられます。

パッケージ別の売上傾向は、CDアルバムは堅調である一方、カセットとアナログLPは、それぞれ19%、30%減りました。シングル売上は、数量で4%上昇しました。

下半期には、より上向きの兆候が見られ、際だった成長が予測される地域もあります。

地域ごとの状況は以下の通りです。

ヨーロッパ・域内最大の独市場は、数量、金額共に5%の成長。仏は、シングルが40%以上増、売上金額2%増。10%以上売上増の国々はスペイン、ポルトガル、フィンランド。ノルウェーは7%増で、過去2年の減少から回復。

北米・米の出荷額5%減。特販商品の出荷減が主な原因で、サウンド・スキャンによれば、小売りは5%増。カナダは7%増。

アジア・世界第2位の日本市場は3%増。金額でマレーシアは15%増、インドネシアは約20%減。一般的にCD売上は急増。

南米・世界で一番急成長している地域。数量で10%増。CDは20%増。昨年それぞれ9%、17%、17%売上を伸ばしたブラジル、メキシコ、アルゼンチン市場は、その成長速度を維持している。

オセアニア・昨年顕著に売上を伸ばしたオーストラリ

アは金額で10%減。ニュージーランド、金額で5%減。

南アフリカ・シングル売上は2倍以上だが、全体では前年並み。(IFPI売上中間発表)

オン・ライン・ビジネス操業のために ECで意見

著作権上の新しい命題は、デジタル・ネットワーク配信時代においてはレコード製作者を違法複製から保護するものであるべきだとして、レコード業界の代表が欧州委員会に以下の優先事項を訴えました。

- ・レコード製作者は暗号化のような技術について全面的に法的保護を受ける必要がある。アナログ時代の「私的録音」に対する課金制度ではなく、デジタル市場では法的に保護された技術的手段が管理上重要である。
- ・商業的な音楽の使用全てについて排他的権利を得ること。インターネットのようなオン・デマンドから専門的な多チャンネル・サービスまでを包含する。公共放送、白黒テレビ、AMラジオ時代の著作権法の原則を大きく逸脱した現在、著作権法も変化しなくてはならない。デジタル・ケーブルとデジタル放送は、映画産業と同様に音楽産業にとっても重要な問題になってくる。
- ・著作権侵害の責任問題を回避しようとする電気通信事業者やオン・ライン・サービス・プロバイダーの試みを防ぐ本当の意味での「著作権指令」とされるべきである。(IFPIプレス・リリース)

会議メモ（主なもの）

（10月1日～10月31日）

- 10・2 再販懇事務連絡会
隣接権審議会特別研究会
ビデオ部会プロジェクト
- 10・3 新作業部会
- 10・6 業界紙懇談会
- 10・7 JASRAC委員会
ISRC問題検討会
営業部会
- 10・8 法制委員会WG

- 10・8 音楽文化懇談会事務局会議
DVDビデオカラオケWG
著作権部会
- 10・9 レコード制作基準倫理委員会
- 10・13 需要拡大委員会
再販プロジェクト
再販懇事務連絡会
- 10・14 業務委員会
- 10・15 再販懇代表者会議
- 10・17 貸レ対策委員会
労政部会
- 10・20 GD幹事会・
演出部会合同会議
- 10・21 ミュージックPOD研究会議

- 10・21 洋楽宣伝専門部会
JASRAC委員会
- 10・22 予算委員会
Q盤プロジェクト
宣伝部会
- 10・24 情報システム部会
ビデオ部会
- 10・28 再販懇事務連絡会議
法制委員会
- 10・31 理事会



HIT CHART DATA

1997年9月度(97年8月21日～97年9月20日)

レコード正味売上げに基づく当協会オフィシャルデータ。

順位	タイトル	アーティスト	発売日	発売元
----	------	--------	-----	-----

■邦楽・洋楽合同シングル BEST7

1. HOWEVER	GLAY	97.8.6	PO
2. たのしく たのしく やさしくね	華原朋美	97.9.18	PI
3. 01 MESSENGER～電子狂の詩～	サザンオールスターズ	97.8.21	V
4. BEAT/KI SE KI	河村隆一	97.7.18	V
5. Melty Love	SHAZNA	97.8.27	BMG
6. パワーソング	シャ乱Q	97.8.21	BMG
7. 硝子の少年	KinKi Kids	97.7.21	JE

■洋楽シングル BEST7

1. ハニー	マライア・キャリー	97.8.27	SME
2. G. B. I	ティ・トゥワ	97.9.10	EW
3. アイ・ノウ・ホエア・イツ・アット	オール・セインツ	97.8.25	PO
4. チェンジ・ザ・ワールド	エリック・クラブトン	96.7.25	WJ
5. アイル・ビー・ミッシング・ユー～見つめていたい	パフ・ダディ&フェイス・エヴァンス(フューチャリング112)	97.7.2	BMG
6. 帝国のマーチ (ダース・ベイダーのテーマ)	ジョン・ウィリアムズ ロンドン交響楽団	97.9.3	BMG
7. ホワイ	3T	97.8.27	SME

■邦楽・洋楽合同アルバム BEST7

1. バタフライ	マライア・キャリー	97.9.10	SME
2. まぐれ	猿岩石	97.9.3	C
3. ふざけんじゃねえ	長瀬剛	97.9.3	FL
4. 恋	古内東子	97.8.21	SME
5. 明日に向かって走れ-月夜の歌-	エレファントカシマシ	97.9.10	PC
6. The Remixes	Every Little Thing	97.9.18	AVT
7. ビィ・ヒア・ナウ	オアシス	97.8.21	SME

■クラシックアルバム BEST7

1. ボーイズ・レクイエム	ボーイズ・エア・クワイアー	97.8.21	V
2. 小澤 征爾・コンダクト・世界の国歌	小澤征爾指揮/新日本フィルハーモニー	97.8.25	MME
3. フランク&エルガー：ヴァイオリン・ソナタ	五嶋みどり	97.8.27	SME
4. エル・タンゴ～ピアソラへのオマージュ2	ギドン・クレームル	97.9.10	WJ
5. マイ・ロマンس	ホセ・カレーラス	97.8.25	WJ
6. 「それが答えだ!」 オリジナル・サウンド・トラック・クラシック・ヴァージョン	サウンドトラック	97.8.20	TO
7. アダージョ・カラヤン・ベスト	カラヤン指揮/ベルリン室内管弦楽団	97.9.5	PG

■洋楽アルバム BEST7

1. バタフライ	マライア・キャリー	97.9.10	SME
2. ビィ・ヒア・ナウ	オアシス	97.8.21	SME
3. エヴォリューション	ボーイズIIメン	97.9.20	PO
4. シンク・ライク・ア・ガール	ダイアナ・キング	97.8.22	SME
5. ノー・ウェイ・アウト	パフ・ダディ&ザ・ファミリー	97.8.21	BMG
6. ビリー・ザ・ベスト 3	ビリー・ジョエル	97.8.22	SME
7. フェイシング・ジ・アニマル	イングヴェイ・マルムスティーン	97.9.3	PC

※AL：アルファミュージック/AR：アンティノスレコード/AVT：エイベックス・ディーディー/BG：ビーグラムレコーズ/BM：ルームスレコーズ/BME：バンダイ・ミュージックエンタテインメント/BMG：BMGジャパン/C：日本コロムビア/CR：日本クラウン/CT：カッティング・エッジ/EP：ワン・アップ・ミュージック/EW：イーストウエスト・ジャパン/FH：ファンハウス/FL：フォーライフレコード/IE：ジャニーズ・エンタテインメント/K：キングレコード/KT：キティエンタープライズ/ME：メルダック/MME：マーキュリー・ミュージックエンタテインメント/NA：NECアベニュー/PC：ポニーキャニオン/PG：ポリグラム/PI：パイオニアLDC/PO：ポリドール/PS：ポリスター/QT：パルコ/RO：ロッキットレコード/SME：ソニー・ミュージックエンタテインメント/TA：ニュートラス/TDK：TDKコア/TE：テイチク/TF：トイズ・ファクトリー/TJC：徳間ジャパンコミュニケーションズ/TO：東芝EMI/UV：ユニバーサル ビクター/V：ビクターエンタテインメント/VAP：バップ/VF：ヴェルファーレ/WJ：ワーナーミュージック・ジャパン/XR：ゼロ・コーポレーション/ZA：ザインレコーズ

■アルバム (20作品)

【邦 楽】

●ダブル・プラチナ

BEAT out/GLAY/96.2.7 (PO)

BACK TO THE BASIC/RATS&STAR/96.7.20 (SME)

●プラチナ

HOME/山崎まさよし/97.5.21 (PO)

恋/古内東子/97.8.21 (SME)

まぐれ/猿岩石/97.9.3 (C)

ふざけんじゃねえ/長渕剛/97.9.3 (FL)

●ゴールド

little circus/SOPHIA/97.4.23 (TF)

明日に向かって走れ-月夜の歌-/エレファントカシマシ/97.9.10 (PC)

The Remixes/Every Little Thing/97.9.18 (AVT)

【洋 楽】

●ミリオン

バタフライ/マライア・キャリー/97.9.10 (SME)

●プラチナ

ビィ・ヒア・ナウ/オアシス/97.8.21 (SME)

エヴォリューション/ボーイズIIメン/97.9.20 (PO)

●ゴールド

フォー・ザ・ラヴ・オブ・ユー/キャンディ・ダルファー/97.5.21 (BMG)

ネクスト/ヴァネッサ・ウィリアムス/97.8.8 (MME)

ノー・ウェイ・アウト/パフ・ダディ&ザ・ファミリー/97.8.21 (BMG)

ビリー・ザ・ベスト 3/ビリー・ジョエル/97.8.22 (SME)

シンク・ライク・ア・ガール/ダイアナ・キング/97.8.22 (SME)

ジョージョー・アクション/ミスター・プレジデント/97.8.25 (WJ)

リリース・サム・テンション/SWV/97.9.3 (BMG)

フェイスング・ジ・アニマル/イングヴェイ・マルムスティーン/97.9.3 (PC)

■シングル (15作品)

【邦 楽】

●クワドラプル・プラチナ

PRIDE/今井美樹/96.11.4 (FL)

硝子の少年/KinKi Kids/97.7.21 (JE)

●トリプル・プラチナ

HOWEVER/GLAY/97.8.6 (PO)

●プラチナ

手紙/米米CLUB/94.11.10 (SME)

V・A・C・A・T・I・O・N/吉村由美/97.7.9 (SME)

O1 MESSENGER~電子狂の詩~/サザンオールスターズ/97.8.21 (V)

たのしく たのしく やさしくね/華原朋美/97.9.18 (PI)

●ゴールド

街 (single version) /SOPHIA/97.7.9 (TF)

パワーソング/シャ乱Q/97.8.21 (BMG)

君がいない夏/DEEN/97.8.27 (BG)

エロス/吉川晃司/97.8.27 (PO)

Melty Love/SHAZNA/97.8.27 (BMG)

錆びついたマシンガンで今を撃ち抜こう/WANDS/97.9.3 (BG)

君だけのTomorrow/前田亘輝/97.9.18 (SME)

【洋 楽】

●ゴールド

ハニー/マライア・キャリー/97.8.27 (SME)

レコード生産実績

1997年9月度(97年9月1日～97年9月30日)

1. オーディオディスク

単位：数量：千枚・巻、金額：百万円

		9 月 実 績						1997 年 (1 月 ～ 9 月) 累 計					
		数 量	構 成 比	前 年 同 月 比	金 額	構 成 比	前 年 同 月 比	数 量	構 成 比	前 年 同 期 比	金 額	構 成 比	前 年 同 期 比
C	邦 洋	12,005	32	93	7,229	15	91	125,087	38	103	78,797	20	103
	計	104	0	47	41	0	49	1,305	0	47	692	0	45
	計	12,109	32	92	7,270	15	91	126,392	38	101	79,489	20	102
D	邦 洋	16,675	44	117	29,011	59	114	133,024	40	103	223,673	55	100
	計	9,054	24	102	12,765	26	94	68,831	21	91	99,864	25	91
	計	25,729	68	111	41,777	85	107	201,856	61	99	323,537	80	97
アナログ	邦 洋	28,680	76	105	36,240	74	109	258,112	78	103	302,470	75	101
	計	9,158	24	100	12,806	26	94	70,136	21	90	100,556	25	90
	計	37,838	100	104	49,047	100	104	328,247	100	100	403,026	100	98
合 計	邦 洋	66	0	369	100	0	521	556	0	133	709	0	134
	計	10	0	21	11	0	11	173	0	96	245	0	82
	計	75	0	118	111	0	97	730	0	122	954	0	115
合 計	邦 洋	28,746	76	105	36,340	74	109	258,668	79	103	303,178	75	101
	計	9,167	24	100	12,817	26	93	70,309	21	90	100,801	25	90
	計	37,913	100	104	49,157	100	104	328,977	100	100	403,980	100	98

2. オーディオテープ

		9 月 実 績						1997 年 (1 月 ～ 9 月) 累 計					
		数 量	構 成 比	前 年 同 月 比	金 額	構 成 比	前 年 同 月 比	数 量	構 成 比	前 年 同 期 比	金 額	構 成 比	前 年 同 期 比
カセット	邦 洋	2,049	98	117	1,695	98	103	16,173	99	101	13,565	99	98
	計	34	2	304	30	2	189	98	1	57	118	1	54
	計	2,083	100	118	1,725	100	103	16,270	100	100	13,683	100	97
カートリッジ	邦 洋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	邦 洋	2,049	98	117	1,695	98	103	16,173	99	101	13,565	99	98
	計	34	2	304	30	2	189	98	1	57	118	1	54
	計	2,083	100	118	1,725	100	103	16,270	100	100	13,683	100	97

3. 複合型CD (CDグラフィックス、CD-I、CD-ROMなど)

		9 月 実 績						1997 年 (1 月 ～ 9 月) 累 計					
		数 量	構 成 比	前 年 同 月 比	金 額	構 成 比	前 年 同 月 比	数 量	構 成 比	前 年 同 期 比	金 額	構 成 比	前 年 同 期 比
邦 盤		12,508	100	356	2,292	99	135	119,398	100	225	21,218	99	124
洋 盤		8	0	88	16	1	39	98	0	86	283	1	69
合 計		12,516	100	355	2,308	100	132	119,496	100	224	21,501	100	123

4. ビデオレコード

		9 月 実 績						1997 年 (1 月 ～ 9 月) 累 計					
		数 量	構 成 比	前 年 同 月 比	金 額	構 成 比	前 年 同 月 比	数 量	構 成 比	前 年 同 期 比	金 額	構 成 比	前 年 同 期 比
ディスク		754	30	79	1,976	21	67	7,985	34	84	21,922	27	77
テープ		1,731	70	106	7,302	79	126	15,745	66	102	58,119	73	104
合 計		2,486	100	96	9,277	100	106	23,731	100	95	80,040	100	95

5. オーディオ／ビデオ／AV複合型レコード合計

		9 月 実 績						1997 年 (1 月 ～ 9 月) 累 計					
		数 量	構 成 比	前 年 同 月 比	金 額	構 成 比	前 年 同 月 比	数 量	構 成 比	前 年 同 期 比	金 額	構 成 比	前 年 同 期 比
オーディオ		39,996	73	105	50,882	81	104	345,247	71	100	417,663	80	98
複合型CD		12,516	23	355	2,308	4	132	119,496	24	224	21,501	4	123
ビデオ		2,486	5	96	9,277	15	106	23,731	5	95	80,040	15	95
合 計		54,998	100	124	62,467	100	105	488,474	100	115	519,205	100	98

備考 1. 本年実績は、会員会社「29社」の集計である。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。

1996年レパートリー別市場金額構成比

国 名	国内楽曲	国外楽曲	クラシック	地方の音楽
オーストリア	10%	82%	8%	—
ベルギー	15%	79%	6%	—
フランス	49%	43%	8%	—
ドイツ	40%	50%	10%	—
イタリア	54%	41%	5%	—
オランダ	23%	68%	9%	—
ロシア	85%	12%	3%	—
スペイン	36%	56%	8%	—
スウェーデン	29%	67%	4%	—
スイス	7%	83%	10%	—
イギリス	51%	42%	7%	—
エジプト	83%	17%	—	—
サウジアラビア	56%	41%	—	3%
トルコ	79%	21%	—	—
中国	50%	4%	1%	45%
香港	53%	37%	8%	2%
日本	73%	27%		—
シンガポール	1%	59%	5%	35%
韓国	51%	36%	11%	2%
台湾	68%	23%	5%	4%
南アフリカ	23%	71%	6%	—
オーストラリア	12%	83%	5%	—
ニュージーランド	9%	85%	6%	—
アルゼンチン	51%	25%	3%	21%
ブラジル	66%	33%	1%	—
エルサルバドル	5%	25%	5%	65%
メキシコ	55%	40%	2%	3%
カナダ	10%	85%	5%	—
アメリカ	97%		3%	—

(注) 資料：IFPI (国際レコード産業連盟) 「The Recording Industry '97 in Numbers」 から

レコード・CDの再販制度は、日本の音楽文化を育てています。

再販制度により、日本では数多くの作品が発売されています。それにより消費者(音楽ファン)には、「商品選択の場」が確保され、また、多くの作家、実演家には幅広いチャンスが与えられるとともに、次代を担う新しい才能が育まれています。

THE RECORD 1997年11月号

発行人 高野 宏

編集人 木村 三郎

発行日 1997年11月10日

発行 社団法人日本レコード協会

〒104 東京都中央区銀座7-16-3
日鐵本挽ビル2F

TEL 03-3541-4411(代)

FAX 03-3541-4460(代)

URL:<http://www.japan-music.or.jp/>